

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2007年 8月号(隔月刊) 第92号

ふじみの国際交流センター第9回総会開催

平成18年度活動報告・決算と
19年度活動計画・予算について討議

総会後には
懇親会も開催

去る6月17日(日)、ふじみの国際交流センターの第9回総会が、開催された。NPO法人としての定款に基づく年1回の最重要会議で、平成18年度事業報告・収支決算報告や、平成19年度事業計画・収支予算報告、新理事の追加などについて審議が行われた。

総会後には、スタッフの手料理などによる懇親会も行われた。センターは仮オープンか

ら10周年、NPO法人としても9回目の総会を迎えるとあって、総会および懇親会では、地域に居住する外国籍の人たちの自立支援と国際交流の活動を行っていくことが改めて確認されると同時に、今後どのようにして多文化共生社会の実現をめざした活動をしていくかなどについての話し合いが行われた。

(次ページに18年度活動実績表を掲載)



●ふじみの国際交流センター平成18年度活動実績

総会で公表された「活動報告書」に沿って、主な内容を一覧表化したものです。

分類	内容	活動実績	
外国人の自立支援	生活支援	生活相談	相談件数：524件
		シェルター	4家族12人が計107日入居
	日本語指導	日本語教室	毎週木曜日、延べ321人参加
		親子日本語教室	毎週土曜日、大井中央公民館で開催
		取り出し授業	ふじみ野市内の小中学校で10人の児童・生徒に延べ784時間の指導
		国際子どもクラブ	毎週土曜日および長期休暇中に外国籍の小中学生に対して日本語、教科指導
		日本語教室ネットワーク	ボランティア連絡会の開催
	多言語情報提供	インフォメーションふじみの	7カ国語情報誌を月刊で発行
		生活ガイドホームページ	6カ国語での生活情報を掲載
		多言語ガイドブック	ふじみ野市、富士見市などの発行する多言語ガイドブック、三芳町の健康カレンダーなど
		翻訳・通訳	生活相談関連翻訳、病院の資料翻訳など
	交流・教育活動	研修会・講座	DV被害者支援講座、生活相談スタッフ学習会などを開催
		パソコン教室	毎月2回土曜日に開催
		団体・自治体とのネットワーク	県内団体・自治体等との情報交換、ネットワーク会議開催
緊急対策	防災訓練	地域の防災訓練、防災計画などで多言語対応について協力	
国際理解と国際交流	教育活動	国際理解講座	小学校・中学校での講座出席
		社会教育	高校生・大学生等のインターンシップ受け入れ
		国際わいわいクラブ	年間登録者62名で9回のイベント開催
	国際交流	国際交流イベント	自治体主催のイベントなどで外国料理を紹介
		自治体などへのイベント参加	ふじみ野市主催の中学生対象の国際交流イベントや
		国際スポーツクラブ	46回開催、延べ1,380人参加
		子どもとともに育つ親の会	5月、12月に親子の会開催
	語学教室	中国語教室	毎週金曜日、延べ406人参加
		韓国語教室	毎週月曜日、延べ252人参加
		英語教室	毎週水曜日、延べ256人参加
		ポルトガル語教室	毎週火曜日、延べ100人参加
	組織・運営	活動実績	センター開放日数
延べ利用者数			スタッフ1,862人、来訪者2,107人
内部会議		総会・理事会	4月、5月理事会、6月総会開催
		スタッフ会議	毎月2回、計23回開催
調査・検証		センターの活動検証	立教大学大学院研究室によるセンターの中期計画策定のための基礎調査実施
表彰		地域づくり総務大臣表彰	総務大臣表彰国際化部門で受賞
		埼玉県ホームページコンテスト	埼玉県主催、優秀賞を受賞
広報活動		機関誌・ハローフレンズ	隔月刊、各1,000部発行
		ホームページ	リクエスト件数月平均4万件

今回は、国際子どもクラブで学んだ中国籍のオウ・ショウユイさんと、オウさんの勉強の手伝いをした日本人ボランティアスタッフの作文をご紹介します。特にオウさんの作文は、来日して1年にしかないオウさんが日本語で書いたものを、そのまま掲載しました。



みんなが 私にくれたもの

オウ・ショウユイ
中学校3年生（来日1年）

こどもクラブは外国人の子どもたちのために作られたそうです。ここでは、日本語の勉強と学校の勉強をやっています。それと、子どもたちに楽しんで習うため、二週間1回ゲームをして、お茶をのみます。

2006年5月に中国から日本に来て、もう二年目になりました。夏休みも毎日センターに来て、初級から習いました。そして、学校でいっぱい友だちを作って、一緒に遊ぶなどをして、かなり先生やいろいろな人と話せるようになった。

2006年12月に日本語能力試験を受けて合格しました。それは全部こどもクラブのおかげだと思います。ここでは、大学生や社会人の人たちがボランティアをやってくれます。みんな、すごく熱心に、あなたのためなら全身全霊で手伝いますという気持ちで教えてくれます。



私はここで勉強することができてよかったと思います。そして、今は私もボランティアをなっています。



現在、私みたいな困っている外国人がたくさんいると思います。だから、私と同じように一緒に子どもクラブに来て、経験しませんか。

成長するオウさんの姿が 私自身の大きなはげみ

ボランティアスタッフ
天野 見南

「国際子どもクラブ」の一員としてデビューした1日目、初めて担当したのが、同じく国際子どもクラブ初参加のオウ・ショウユイさんでした。オウさんは日本語ゼロからのスタート。まずはひらがなカードを使ってひとつひとつ一緒に文字を覚えていきました。2006年5月から日本語を学び、はじめはひらがなカードで発音するのでさえ苦労していたオウさんも、夏ごろには私との日常会話やメールのやりとりができるまで成長しました。こんなにも短期間で日本語を習得できたのは、毎日決められた時間日本語の勉強にとりくんできたという彼女の勉強に対する熱心な姿勢とやる

気があったからだと思います。そして今ではみんなの前でしっかりと自分の意見を発言できるようになりました。はじめはシャイでチャーミングな印象のオウさんでしたが日本語を勉強して習得した今、彼女は自信に満ちあふれてとても輝いています。

日本語を教えるのはまだまだ初心者な私は壁にぶつかることも多々ありますが、そのように日に日に成長していくオウさんの姿や、理解したときに見せてくれる笑顔が私にとって大きな喜びであり、はげみにもなっているのです。

ダンボール de あそぼう ダンボールで迷路や トンネル、滑り台

「ボンジーア！」「ニイハオ！」「アンニョンハセヨ！」「チンドウオ グァン ジャオ！」

子どもと共に育つ親の会の6月のイベント「ダンボール de あそぼう」は、参加した外国籍ママたちから、母国の挨拶を教えてもらってから始まりました。

まずは全員で新聞紙バルーン、続いてダンボールの階段や滑り台、迷路やトンネルにチャレンジする子どもたち。いつもは子どもに「破っちゃダメよ」と言っているママも、今日は新聞紙を思い切りビリビリと破ったり、ダンボールを積み上げたりと楽しそう。遠慮がちだった初対面のママたちも、最後には「もうちょっと右に動かして～」「了解～！」と協力してトンネル付きの長いコースを作りあげ、自然と仲良くなっていました。

私たち日本人は、国際交流っていうと、民族衣装を着たり外国料理を食べたりと、ちょっと日常と違うことをするみたいに考えがち。でも、こうして一緒に遊んで一緒におしゃべりをして少しずつ仲良くなること、知ってることは教えてあげて、知ら



ないことは教えてもらうこと。そんな風に自然にトモダチになれば、それも素敵な国際交流なのだと思います。

●次回は「どろんこ遊び」に挑戦

日程： 8月28日（火）

場所：富士見市 山崎公園

「どろんこ de あそぼう！」をやります。参加費無料タオルや着替えを持って来てください。

情報：<http://oya.hansokuya.com/>



たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年になりました。

その間、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。背中をポンとたたいて下さっている笑顔が思い浮かんできます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後ともご支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター（FICEC）理事長 石井ナナエ

みよし日本語教室 藤久保と竹間沢 2つの教室を開催

1997年7月に三芳町藤久保でスタートした「みよし日本語教室」。99年4月には竹間沢（ちくまざわ）教室もスタートして、2教室体制で地域の外国籍の人たちに日本語指導をしています。

日本語を勉強することはもちろんいちばん重要

なことですが、それ以外にも、春のお花見や時折のバス旅行など、「日本を楽しむ」催しも開催しています。

取材した2007年7月には、ちょうど受講者が母国（中国、シンガポール）に帰国するとあって、その送別会が開かれました。インドネシアの人たちのダンスや、日本語の先生による手品など、いろんな「かくし芸」が飛び出して、楽しい「門出を祝う会」になりました。

●連絡先

平田紳一郎：049-259-0240



ふだんは日本語を一生懸命、しかし楽しく勉強



帰国する人たちの門出を祝う送別会を開催



送別会では、インドネシアのダンスや、先生の手品も飛び出した



やりがいをもって、 無理なく参加しています

大関 優

「ニホンゴでキーが打てるようになりました！」「日本語学習ツールををパワーポイントで作ってみました」とお伺いしたとき、このボランティア活動に参加して良かったな、と嬉しい気持ちと大変やりがいを感じました。

四年前から、国際子供クラブの学習指導をさせていただき傍ら、月二回開催で細々とはありますが、さまざまな国の方々のパソコン操作スキル向上、スタッフのITスキル向上を目的としてパソコン教室を続けております。

センターには学習用のパソコンが数台、またインターネット環境も整備されておりますので、パソコンをお持ちでない方でもパソコンに触れることができますが、ご自宅のノートパソコンを持ち込まれて学習される方も多ようです。

エクセルやワード、年賀状ソフトの基本操作を覚えに来られる方もいらっしゃるが、パワーポイントのアニメーション機能でツールを作成されたスタッフの方、最近ではブラジルへのメール送信にトライしている方まで様々です。

当センターにもHPがございますが、海外から来られた皆さんの母国との情報交換、ボラ

ンティアスタッフ各々の活動に関する情報発信や情報交換などといったものには今後はブログ等の活用も適していると思っておりますので、是非パソコン教室でも扱ってみたいですね。

センターでの活動は『地域』と触れ合う場でもあり、私自身のITスキルを『面白く』また『無理なく』お役立ていただけるので大変やりがいを持って活動させていただいております。

耳学問こそ 会話力の始まり

岩田 仁

1945年終戦、アメリカ軍が進駐した折、ある民間情報局は日本が軍国主義に走った原因は教育不足にあるという仮説を立てました。平仮名、片仮名、漢字を使つての表記法は、いかにも習得が難しいという推測があったからです。教育不足は、この無駄をなくしすべてローマ字表記にすれば無くすることができる。

ところが調査を始めてみるとどうでしょう、日本人の教育力の高さは驚異的なものであります。

「文字の多さと言語習得の難易とは必ずしも関係のない」ことを知った当局は、日本語のローマ字表記を撤回したということ。「日本語練習帳」の著者であり、日本を代表する言語学者の一人である大野晋先生が語っておられます。

識字率、それは読み書きができる人々の数のこと。日本の識字率は99.8%、世界1の教育力を誇れるのです。世界の識字率を見ますと教育環境の整備こそが重要であるといえましょう。同じアジアの国タジキスタンの識字率は99.5%であるのに対し、隣国のアフガニスタンは36.3%にしかない現実がそれを物語っていると言えましょう。



話を進めましょう。私たちの日本語教室は識字率を上げることを第1目標にしているのでしょうか。答えはノーです。機会を求める者には適切な指導が有ります。しかし受講者の多くは、まず日本で生活するための最低の会話力からのスタートを目的に集まってきているものと判断します。生活言語としての日本語を学んでいただく、日本での豊かな生活を心身ともに享受していただくために、まず会話力の体得から始めていただくことを願っています。耳学問から始めていきたいものです。会話耳そんな言葉も出回っています。

現在、ふじみの国際交流センターの日本語教室は週1回木曜の午前と決まっています。会話耳の習得にはあまりにも零細すぎるものと思えます。組織が許すならば毎日でもという気持ちがあります。センターに来れば、いつでも“会話耳”の練習帳がある、そんな環境はできないものでしょうか。センターには生活者の熟練講師が常駐しています。話し相手になることで学習の1歩が踏み出されるものと考えます。

木曜日の日本語教室に加えて、月曜日から金曜日はフリーな「会話耳(・)教室」と位置づけられれば、早い習得を目指した効果のある学習ができるのではないかという夢を持っています。多くの外国籍市民が日本語習得をキーワードにした談話室、茶菓を前にしながら日ごろの話題をテーマに日本語に親しむ、そんな雰囲気を持った学びの場ができないも

のかと願っております。

地域の学校での 国際交流活動に参加

鈴木美佐子

ふじみの国際交流センターで私が参加している活動は、地域の学校の国際交流が中心です。日本の学校に通う外国人の子供の授業の補習をする取り出し授業、そして小中学校での国際理解の授業の企画・運営です。

取り出し授業は、外国人の中学生の国語の授業をサポートします。日本語が母国語でない子供たちにとって、国語の授業を理解するのは難しいことです。そこで、センターでは、授業中に子供の傍で、難しい日本語の表現をその場で教える指導を行っています。また、学校の勉強だけではなく、生活面での悩みについても相談に乗ります。

国際理解の授業では、小中高生に料理を通して国際交流の機会を提供しています。世界各国の料理を紹介し、子供たちにその国の文化や習慣、言葉などを紹介します。身近なテーマですので、子供たちは興味を持って授業に参加できます。

このような活動を通して、私も勉強になる部分が多くあります。国際交流に関心のある方、私たちと一緒に地域に根ざした活動を行いませんか。



センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

●2006年4月～（50音順・敬称略）

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美 小澤ヴィクトリア 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘 上福岡教会 候 国際ソロプチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 菅山修二 鈴木讓二 堰代仁子 染谷英子 高橋郁子 高橋智子 武田和子 寺村壁如 中嶋恵津子 萩原千代子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田栄子 東入間防犯協会 三澤真理 村上省三 百瀬 滉 森田信子 矢野やすこ

●ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター(FICEC)のスクール、クラブ

<p>日本語教室</p> <p>「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。</p> <p>●毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ</p> <p>日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。</p> <p>●毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室</p> <p>外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。</p> <p>●月2回土曜日開催 午前10時～12時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<p>国際スポーツクラブ</p> <p>上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。</p> <p>●毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：大人100円</p>
<p>中国語教室</p> <p>学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。</p> <p>●毎週金曜日 午前10時～12時 受講料：1回200～300円</p>	<p>韓国語教室</p> <p>韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。</p> <p>●毎週月曜日 午前10時～12時 受講料：1回500円</p>	<p>ポルトガル語教室</p> <p>ブラジルで通訳の仕事をしての方が指導。</p> <p>●毎週火曜日 午前10時～12時 場所：西公民館 受講料：1回1000円</p>	<p>英語教室</p> <p>初心者を対象としたスクールです。グループで楽しみながら勉強します。</p> <p>●毎週水曜日 午後7時～ 受講料：月4回4000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

■台風、地震と天災続きですね。みなさんのご家族、お友達は、大丈夫でしたでしょうか？こういうとき、言葉が通じないとさらに不安だろうと想像します。地震を初めて体験する外国人もいることでしょう。お互い大変な、災害時だからこそ、声をかけあえるといいですね。（上原）

■最近、国際スポーツクラブに新しい仲間が加わりました。台湾からの留学生（大

学院生）とインドネシアから日本にきている人達です。最近では体育館が蒸し風呂のように暑いのですが、おかまいなく、みなさん常に一生懸命プレーされます！そんなみんなと会うのが楽しみです。（篠島）

■2カ月に1回の発行なので、編集～組版の作業もそれほどの負担ではない。それでも、発行の間際になるとパソコンの前

にこもって原稿執筆やら組版やらの作業に追われることになるが、今回は予定外の原稿が入ったり、予定されていた原稿の量が多かったりして、非常に作業が楽でした。自分の執筆部分が少なくなると、実は私の作業がきわめて楽になるので、ぜひ、みなさん、いろいろ原稿を寄せていただくよう、お願いいたします。（内藤）

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ（センター理事長）
 編集委員（50音順）：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上島直美、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291
 生活相談専用電話:049-269-6450